第８号

『時は命なり』

Ｒ４．７．２２

たくさんの出会いのあった１学期でした。始業式が遠い昔のように感じられます。そんな１学期も今日が最終日。朝一番で、意見発表、終業式、受賞伝達、壮行会と立て続けに行いました。

意見発表では各学年の代表が一人ずつ発表します。１年代表は、「自信と仲間」と題して、１学期に経験し、感じたことを話してくれました。中学校入学を機に小学校の頃はできなかった「リーダー」という役割に挑戦した、という内容でした。

積極的に友達づくりをし、困っている人に声をかけ、人のために行動することによって信頼を得、仲間に声をかけられることによって自信がついたとのこと。リーダーとフォロワーの関係がうまくいっているなと感じました。

２年代表は「普通」と「自分らしさ」について語ってくれました。みんなの「普通」に近づこうともがき、言いたくもない「それな。」「分かる。」の言葉で共感を装い、自分らしさを見失いそうになっていく。そんな時、個性的な友達の言葉で「自分らしさ」の大切さに気付く、そんな話でした。

思春期にぶつかりがちな悩みだなあと思いながら、いや待てよ、これは日本国民が陥っている悩みではないかとハッとさせられました。

３年代表は体育大会で「のぼり制作」の責任者になった経験を語ってくれました。責任のある立場に着くと、プレッシャーを感じる。でもそれは、頼りにされているからだと捉えなおしたとのこと。制作の過程でいろいろな課題にぶつかりますが、悩みながら誠実に対応する様子がよく分かります。悩むということは責任感の裏返し。最後の「自分の言動に責任をもちたい。」という言葉が頼もしく耳に響きました。

ついでに私の終業式の式辞は、「時は命なり」ということについての長話（悪い癖）。時は金ではなく命そのものだということ。私たちは限りのある命を生きています。死は平等に訪れますが、寿命は平等ではない。そのかけがえのない命を互いに生きています。時を無駄にするということは命を無駄にすること。

オチは「夏休みも無限ではなく、限りがあります。」でした。